

聖木曜日「主の晩餐の夕べのミサ」

福音朗読 ヨハネ 13・1-15

2023.4.6

カトリック高円寺教会 19:00

主任司祭 高木健次神父

今晚、わたしたちは主の晩餐の夕べのミサ、聖木曜日の典礼をご一緒にお捧げしています。このごミサでは特にわたしたちカトリック教会の信仰生活の中心でありますご聖体がイエス様によって制定された、弟子たちとの最後の晩餐の席でイエス様がそのことを行うように命じることを通して、わたしたちの教会の中にご聖体を残してくださったということを記念する日になっています。わたしたちのカトリック教会の使命の中心、そして信仰生活全体の中心が、共にごミサを捧げるということであることは間違いないわけです。司祭が、じゃなくて、共に、です。それぞれの役割がいろいろあったとしても、ですね。

なので、この日に言わなくてもいいかもしれませんが、共に与るという気持ちを表すために、なるべく前のほうに来たらより良いのではないか、もちろん座る場所は自由ですが。そして、後ろに座っているからといって、共に捧げる気持ちがないと判断する、とそういうことじゃ決してないんですけど、一応いつか言わなくちゃいけないから、時々申し上げますね。一緒に参加する、それがカトリック教会の信仰の中心だから。

ただ、そのごミサの中心はイエス様の地上の生活の思い出なんだっていうことを忘れてはなりません。典礼、儀式っていうのは、そこに籠められた意味、その表している意味から離れてしまうと、わたしたちはそれを勝手に用いてしまう。そして、イエス様は「神様は全ての人を等しく愛しておられるんだよ」ということを生涯かけて伝えようとしていたのに、わたしたちがそれを勝手に用いて、「人間にはご聖体に携わるその近さによって序列があるんだよ」っていう、そういうメッセージに変わってしまうっていうことはあり得るわけです。全く別のことになっちゃう。だから、わたしたちは絶えずご聖体、そこにいらっしゃるイエス様のことを、生前の、弟子たちが体験した思い出を元に記念し続けなければならない。具体的にもっと言うならば、福音書が伝えてくれているイエス様のご生涯に何度も何度も、教会のミサの時はもちろんですけども、それぞれうちでも、聖書を通して触れ続けるっていうことです。それがとっても大切です。

何も分からなくても、でもイエス様の愛だから。イエス様が愛してくださるから。秘跡というのは受け取る側の状態には関わらず、恵みだから。それは事実です。

でも、それはイエス様がわたしたちを愛してくださる愛についてのことです。イエス様はわたしたちが、ご自分のことを何も知ろうとしなくても、わたしたちがどのような者でも愛してくださる。それをたしかなことです。しかし、わたしたちの信仰生活は神様から、イエス様から愛していただければ、それで良い、神様から愛してもらっていいことを求めているんじゃないんですよね。それはもう前提として受け取って、神様はどんなときでも、イエス様はどんなときでも、わたしたちがどのような状態であっても愛してくださる。それは間違いない。そのイエス様の愛にどのように応えるのかっていうのが一人ひとりの信仰生活の課題になるはずなんです。そして、イエス様の愛に応える、イエス様に愛を返そうとするときに、わたしたちの中にもっとより深くイエス様の愛が理解できるし、わたしたちの中に力が湧いて来る、力を頂けるってことです。そのために、じゃあイエス様にどのように愛を返したらいいのか。その中心が、絶えずその思い出に触れることを通して、わたしたち自身がイエス様のご生涯から影響を受けるといふことに他ならないわけです。

それは、「影響を受けなさい」と人から言われて受けられるものじゃないんです。影響を受けるといふのは、周りの他の人と人との繋がりでも「あの人いいなあ。あんな人に自分もなれたらいいなあ」って思っているもなかなか同じようにはできないけど、でもその人に出会わなかった自分と出会った自分はやっぱり違うんだろうし、影響を受けてるんだろうなあって思える。イエス様との繋がりもそうです。むしろ、もっとそうですね。イエス様の生涯に何度も何度も触れることを通して、そしてそのイエス様がわたしたちの中にいつもいらっしゃるんだよっていうことをご聖体を通して思い出すことで、わたしたちもきっと知らず知らずのうちに影響を受けるんだ、いや、受けるに違いないんだ。それが典礼全体が表しているというか、そこに参加しようとする洗礼を受けた信者の一つの意気込みと言いましょか、そういうことなんじゃないかなあと思います。

最も大切なことをいつも、最もしばしば頻繁に記念して行っているというのがカトリック教会の特徴ですね。普通は大切なことっていうのは一年に一回とか、五年に一回とか、勿体付ける。でも、神様はそうじゃないんです。一番大切なことをいつも渡そうとされるんです。だから、毎朝とか毎日、毎週、年々歳々記念する。でもその出発点をこの聖木曜日は、ごミサ、そしてご聖体ということ思い出さすわたしたちです。

このわたしたちが、ほんとにそこにいらっしゃるイエス様の思い出に絶えず触れ続ける、その思いを新たにして、ほんとだったら今日は洗足式も、普段と違って、イエス様はこういうふうにして一人ひとりのほんとに近いところで足を洗ってくださる方なんだっていうことを思い起こしながらするんですけども、今日はまだ教区のほうのコロナの感染予防のことで「それはしないように」っていうことですから、またいつか洗足式の儀が復活できたらいいなあって思います。

そのようにイエス様がわたしたち一人ひとりを、ご自分に出会って欲しい、そして影響を与えたいって言う大変な言い方だけど、出会いの実りを一人ひとりの中に実を結んで欲しいという思いでわたしたちを集められたんだということ、ここにいる人はもちろん、そして今日は参加することができない人の分まで、思い起こしながら、わたしたちの信仰の中心であるこのごミサを与えられたことを感謝し、イエス様との出会いを日々している、その思いを新たにして、そのための恵みを願いたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>